

おおが
延徳小と大賀ハス

大賀ハスは、昭和26年に都内の泥炭層の発掘現場から3粒だけ見つかかり、その内の1粒のみが発芽に成功した約2000年前の古代のハスである。発掘や発芽させるのに中心的な役割を果たした大賀一郎博士の名前をとり、大賀ハスと命名された。

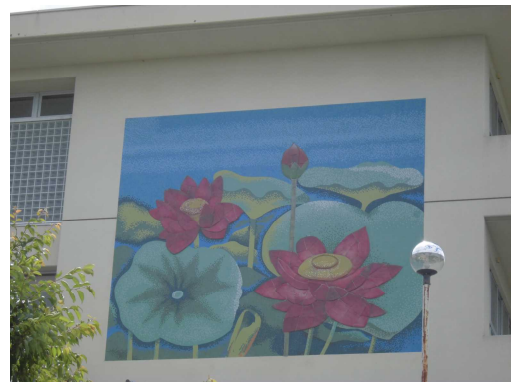
延徳小に植えられたのは、昭和30年である。下高井教育会で大賀博士を招いて講演会を開催し、その際に分根をお願いし、郡下3校に植えられたが、無事に成長したのは延徳小のものだけだった。それを元に昭和32年には市内、県内の十数カ所の学校等に分根された。そのようなことで、大賀ハスは延徳小のシンボリックな存在になり、昭和61年の校舎改築の際に校舎に壁画として描かれた。

現在、延徳小には少し高台になっている校舎の脇と、校門の外に大賀ハス用の池があります。校門の外の池は、学校の敷地に立ち入らなくても見られるようになっていました。

(歴史的なことは、本校に保管してある文献を参考にしました。)



↑大賀ハスの花



校舎の壁に描かれた↑大賀ハス



↑校門の外にあるハス池



↑校舎脇のハス池

田んぼ水族館

しんびきがわ

延徳小近くの真引川沿いの田んぼを、地元の有志の人達で組織している「里山と川の自然に親しむ会」のみなさんが整備したもの。大賀ハスの他に世界の各種のハス等が植えられている。

